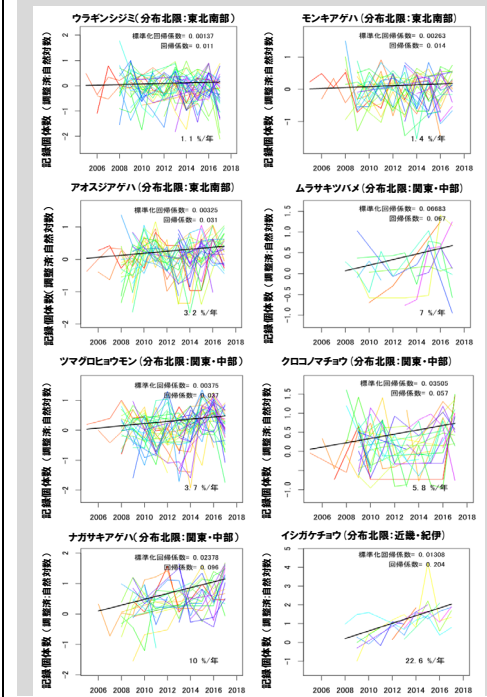
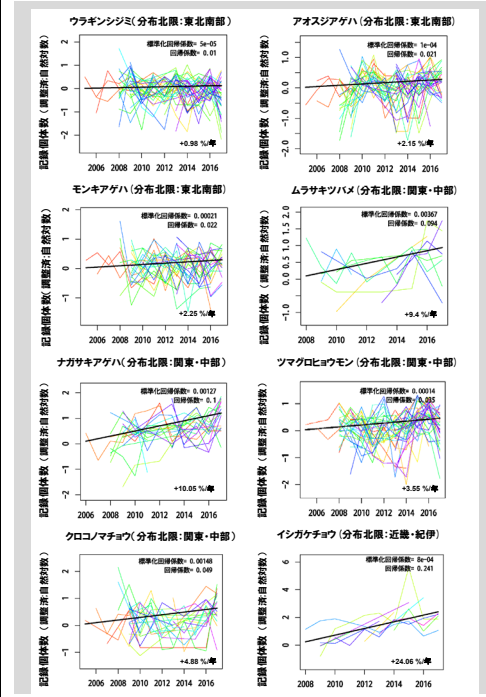


モニタリングサイト 1000 里地調査 生物多様性指標レポート 2018 正誤表

ページ	段落、図表番号	誤	正
24	本文 2 段落目	また、分布北限が南にある種ほど、1年あたりの個体数増加率が高くなる傾向が見られた(分布北限が東北南部である3種: <u>+0.98%</u> /年、 <u>+2.15%</u> /年、 <u>+2.25%</u> /年、関東・中部である4種: <u>+3.55%</u> /年、 <u>+9.40%</u> /年、 <u>+10.05%</u> /年、近畿・紀伊である1種: <u>+24.06%</u> /年;図 3-23)。	また、分布北限が南にある種ほど、1年あたりの個体数増加率が高くなる傾向が見られた(分布北限が東北南部である3種: <u>+1.1%</u> /年、 <u>+1.4%</u> /年、 <u>+3.2%</u> /年、関東・中部である4種: <u>+3.7%</u> /年、 <u>+5.8%</u> /年、 <u>+7.0%</u> /年、近畿・紀伊である1種: <u>+22.6%</u> /年;図 3-23)。
25	図 3-23	別紙 図 3-23 南方系チョウ類 6 種及びインガケチョウ、ムラサキツバメの記録個体数の経年的な全国傾向【誤】	同【正】 (個体数変化率の数値、回帰係数の数値、種名の表記の順序などを修正した)
44~46	付図 2	別紙 付図 2 全調査サイトのチョウ類各種の記録個体数の経年変化【誤】	同【正】 (個体数変化率の数値、回帰係数の数値、種名の表記の順序などを修正した)
56	付表 2-2	付表 2-2 植物の外来種率【誤】	同【正】 (不要な行のデータを削除)



植物の外来種率(全基本対象種群)	植物の外来種率(全基本対象種群)				
	2011	2012	2013	2014	2015
2016	2011	2012	2013	2014	2015
S077 鹿間(神奈川県)	21.2	22.8	22.9	22.4	22.5
S080 中津川(神奈川県)	21.3	22.0	21.3	21.2	21.2
S082 越路原(新潟県)	15.6	20.6	19.0	19.8	15.7
S085 柏崎(新潟県)	17.2	-	-	9.3	-
S087 松代城(新潟県)	12.7	11.1	14.2	12.2	11.1
S090 奥羽(富山県)	19.5	-	-	-	-
S091 五箇山(富山県)	10.2	11.0	10.5	8.6	9.0
S092 月間(石川県)	15.4	17.9	14.7	13.5	15.0
S094 能登(石川県)	15.8	14.4	13.2	14.0	14.6

植物の外来種率(全基本対象種群)	植物の外来種率(全基本対象種群)				
	2011	2012	2013	2014	2015
2016	2011	2012	2013	2014	2015
S077 鹿間(神奈川県)	21.2	22.8	22.9	22.4	22.5
S080 中津川(神奈川県)	21.3	22.0	21.3	21.2	21.2
S082 越路原(新潟県)	15.6	20.6	19.0	19.8	15.7
S085 柏崎(新潟県)	17.2	-	-	9.3	-
S087 松代城(新潟県)	12.7	11.1	14.2	12.2	11.1
S090 奥羽(富山県)	18.5	11.0	10.5	8.6	9.0
S091 五箇山(富山県)	10.2	11.0	10.5	8.6	9.0
S092 月間(石川県)	15.4	17.9	14.7	13.5	15.0
S094 能登(石川県)	15.8	14.4	13.2	14.0	14.6